

# STAGE

お客様との絆を紡ぐコミュニケーション誌  
[ステージ]

2013  
SPRING  
No.1

「特別対談」  
ファイナンシャル・プランナー、  
北野琴奈さんに聞く  
将来に備える、賢い投資のススメ

「タウン紹介」  
STAGEのある街 第1回

蒲田エリア  
(東京都大田区)

Cover Interview

スポーツのリーダーに聞くTheリーダーシップ 第1回

宇津木妙子さん

(元ソフトボール日本代表監督)





COVER  
INTERVIEW  
with  
**TAEKO  
UTSUGI**

スポーツのリーダーに聞く  
Theリーダーシップ  
第1回

# 宇津木妙子さん

会社や組織で、一人ひとりが力を発揮する…。  
そのためには、力強いリーダーシップを持つ人の存在が不可欠です。  
そこで、スポーツ界で輝かしいリーダーとして活躍された方に、  
リーダーシップとは何か、その神髄をお聞きます。

取材・文= 川井直樹  
写真= 清水タケシ

宇津木さんのトレードマークであるサンバイザーとサングラス。選手とのコミュニケーションで威力を発揮するそうです



元ソフトボール日本代表監督

宇津木妙子 Taeko Utsugi

1953年、埼玉県生まれ。星野女子高等学校卒業。中学1年からソフトボールを始め、高校卒業後はユニチカ垂井に入社し、ソフトボール部で選手として活躍。選手を引退後、日立高崎(現・ルネサスエレクトロニクス高崎)監督を経て、日本代表監督に就任。2000年のシドニーオリンピックで銀メダル、04年のアテネオリンピックで銅メダルを獲得。

中学に入学して始めたソフトボール。選手から実業団チーム監督、日本代表監督とずっとソフトボールと共にある。現役監督を退いた今は、後進に、そして子供たちにソフトボールを教える普及活動に力を注ぐ。それは、北京オリンピックを最後に、オリンピック種目から外れてしまったソフトボールをもう一度復活させたいという強い思いがあるから。

「リーダーにとつて大切なことは、常に人と向き合うこと」

私がソフトボールを始めたきっかけは母の存在です。私は5人兄妹の末っ子。普通ならかわいがられて育てられたと思うでしょうけど、父はそうでもなげか母は厳しかった。勉強じゃなくてもいいから、なにか一番なれば母は私を誉めてくれるかなと思っていました。中学生になったとき、ソフトボール部の顧問の先

生が、なんでも一番という人はいない。なにか一つでもいい。例えば食い一番でもいいから、一番になれるものを見つけなさい」と言ってくれました。その言葉に共感して、「ソフトボール部に入って県大会で一番になろう」と決めたのが始まりです。

中学、高校とソフトボールを続け、高校卒業後は実業団チームのユニチカ垂井に入社。1部リーグチームだったが上位を争うほどではなかった。強くなりた、一番になりたいという思いが高じて1年目でキャプテン就任を直訴する。

ユニチカ垂井に入社して驚いたのは、チーム練習後に一人で練習している先輩に叱られること。リーグでは下位の常連チームで、全体練習はやつても目標を立てた個人練習をしない。それで、新入社員にもかわからず部長に「キャプテンにしてくれ」と直談判したん

です。そのときは却下されましたが、3年目にキャプテンになりました。そのときからチームの先頭に立って練習や意識改革に取り組み、チームを変貌させました。リーダーとしてやったことは、挨拶や整理整頓、先輩後輩や同僚を敬うことなど。人としての基本を徹底させました。練習もそれぞれが目標を持って取り組むようにしたので、チームも強くなりました。

ユニチカ垂井では、一般の女子社員とソフトボール部員が同居する寮の管理者となった。ここで、一人ひとりと向き合ってきたと話をすることの大切さを覚えた。この経験が監督になって役立ったと振り返る。

ユニチカ垂井での職場は総務部福利厚生課でした。工場や寮のトイレがよく詰まるので、その処理をしていたとき、一緒に作業していた上司の「辛いだろうけど、これ

は誰かがやらなければならない仕事なんだ」という言葉が忘れられないですね。

現役を引退した後、日立高崎(現・ルネサスエレクトロニクス高崎)から監督にとの声がかかりました。父に相談してみると、「選手は自分のことだけ考えていられない。でも監督は指導者としてそうはいかないよ。選手は監督の背中を見ている。その覚悟はあるのか」と言われ、「3年で結果が出なければ辞めなさい」とも言われました。初の女性監督誕生に尽力してくれたのは当時の工場長です。会社の中で孤立無援だった私にとって一番の味方でした。その方がいなかったら今の私はないかもしれない。

振り返ってみると、いろいろな局面で、優れた指導者、監督に巡り会えたと思います。また、私はエリート選手ではなかったけれど、



「人の上に立つ者は、  
孤独に耐え、一人で決断し、  
一人で責任を取る覚悟が必要です」

努力して日本代表にもなった日本代表監督も務めることができず。私が信じて進む方向に選手はついてきてくれた。それはリーダーとして、常に選手と向き合ってきたからだと思っています。

日本代表監督としてシドニーオリンピックで銀メダル、アテネオリンピックピックでは銅メダルを獲得した。その後、日本代表チームは齋藤春香代表監督の下、北京オリンピックで金メダルの夢を叶える。

北京オリンピックで大活躍したルネサスエレクトロニクス高崎の上野由岐子投手は、世界一の投手です。彼女もいつか指導者の道を歩むでしょう。そのために上野に言ってもらいたいのは「人としてどうあるべきかをまず考える」。そして「若い選手は上野を見て育つ」ということ。リーダーとして人を育てることはすごく難しく、また人



宇津木さんの座右の銘は「努力は裏切らない」。色紙に書いていただきました

の上立つ者は孤独にも耐えなければならぬ。一人で決断し、一人で責任を取る覚悟が必要です。

ソフトボールをもう一度オリンピックの正式種目にすることを使命としている、と冒頭に言いました。もう一つの使命は、選手へのセカンドキャリアの道をつけることです。これも私に課せられた使命だと思っています。若いときは、将来のことを考えずにがむしやりにスポーツに専念するものです。一方、情報化時代の今選手は利口ですから将来に不安も持っています。日本アスリート会議でも、選手のセカンドキャリアを重要な議題として扱っています。将来の生活に備えること、そのアドバイスができることも、これからの指導者の大切な仕事かもしれません。

**PRESENT!** 宇津木様のサイン入り色紙を抽選で1名様にプレゼントします!! ※応募方法は12ページをご覧ください。



Mainstage Owner  
Takao Noda



profile

年齢:45歳  
家族構成:妻と二人暮らし  
お住まい:社宅  
理想の老後:海釣り趣味なので、  
海に近いところに住んで釣り三昧。

## 少ない負担で 分厚い年金対策ができます

エネルギー関連企業勤務  
野田隆男様

青山メインランドを信頼したのは、営業担当者の「これは儲け話ではありません」という一言ですね。それまで電話勧誘のほとんどが、投資すれば儲かるという勧誘スタンス。「儲け話ではない」と言われて、話を聞く気になりました。

最初に購入したのが2003年です。それから10年前。35歳の時でした。実は1室購入した翌月にはもう1室購入し、その1年半後にさらに1室追加して、今では3室を保有しています。妻に相談した時は「大丈夫なの?」と言われましたが、毎

月の返済の負担が軽いこともあり納得してもらいました。

経済環境の変化や東日本大震災後の社会の変化など、将来的な不安は増大していると思います。企業年金や国民年金だけでは老後の不安もある。購入した時はそこまで考えていなかったというのが正直なところですが、思い切ったオーナーになってよかったです。青山メインランドのフォロワーにも満足していますし、今は会社の若い社員にも「今のうちぞ」と勧めているんです。

Mainstage Owner  
Hisaki Hashizume



profile

年齢:50歳  
家族構成:妻、長男、長女  
お住まい:一戸建ての自宅  
理想の老後:妻とのんびりドライブと旅行。

## 生命保険対策で購入を決断 将来への不安も和らぎました

警備保障企業勤務  
橋詰寿紀様

マンションオーナーになったきっかけは、50歳が近づき生命保険料が跳ね上がる前に対策をしようと思ったことです。「税金対策」や「お金儲け」に興味はありませんでしたが、青山メインランドの営業担当者から「生命保険対策になりませ」との説明が契機につながったきっかけです。初期費用や月々の負担もイメージよりかなり少なく、十分支払える範囲内だったので、特に問題とは感じませんでした。

2005年に最初の1室を購入。それから2、3年ごとに購入

し、現在は3室のオーナーです。自宅のローンに加えてさらにローンを組むので妻は心配したようですが、適正な家賃設定をもとにしたサブリースシステムにも納得していました。現状の生活を変えずに始められそうだったので、最終的には妻が決断したようなものです。購入後のマンション管理などに対し、定期的なフォローもしっかりあるので安心していきます。マンションオーナーとなり、しっかりと準備をしたことで将来への不安も和らいだかなと思っています。